

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市若林図書館		
2 指定管理者	株式会社ヴィアックス		
3 指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 173,126人団体〔個人:172,889人、団体・文庫:237団体〕(前年度比 109.9%) 令和3年度 157,482人団体〔個人:157,328人、団体・文庫:154団体〕(前年度比 101.9%) 令和2年度 154,486人団体〔個人:154,318人、団体・文庫:168団体〕(前年度比 85.1%)		
	《事業》 仙台市若林図書館の運営管理		
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 97,756千円 (97,154千円) ・ その他市が負担した費用 14,972千円 (29,402千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 30千円 (24千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート 実施期間:令和4年12月10日～12月23日 ・利用者懇談会 開催日:令和5年2月16日		

## 二 管理運営に係る評価 (モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護に努めるとともに図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底している。危機管理マニュアルを作成し、必要な研修を実施している。 災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	30/30
III 施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。また、カウンターでは持ち寄られた紙袋を本の持ち帰り用に希望する利用者へ提供したり、館内の子ども用トイレに節水を呼びかける掲示をする等、環境へ配慮した取り組みがなされている。	17/17
IV サービスの質の向上	利用者からの意見を受けて、汚損・破損資料の買い替えや修理・補修、書庫等に複数所蔵している場合は入れ替えを行うなどして、誰もが気持ちよく利用できるための工夫について、前年度以上に積極的に行った。 職員の教育・研修において、定例休館日に、接遇研修や、障害者対応研修など、全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、著作権法に関する研修や、ブックトーク研修など、職員の資質向上のため、積極的に各種研修を受講している。	27/27
V 施設固有の基準	来館が困難な利用者に対する非接触型のサービスとしてオンラインによるおはなし会を開催してその需要に応えるとともに、図書館外でもおはなし会を開催するなど、コロナ禍で減少した利用者数の回復に努めている。 また、震災の記憶を継承し風化を防止するため、3.11オモイデアーカイブと連携して定点記録写真の巡回展を開催した。加えて若林区の農業地帯としての成り立ちに着目し、せんだい農業園芸センターみどりの杜と連携して野菜づくりに関連した講演会を行っている。 区内児童館や家庭健康課と連携し、乳幼児と保護者向けのおはなし会や、蒲町中学校「紙芝居研究会」の生徒向けに紙芝居の基本的な演じ方についての講習を行い、本を通じて親子がコミュニケーションを深める機会の提供や、中学生の図書館利用促進に貢献した。	18/16

### 三 評価総括

《指定管理者（株式会社ヴィアックス）による自己評価》
<p>前年度に続き令和4年度もコロナ禍の中での事業実施ではあったが、感染拡大防止対策を講じたうえで若林図書館の地域特性を活かして「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現を目標に運営を行った。中でも「せんだい農業園芸センターみどりの杜」と連携した土づくりについての講演会では、参加希望者が定員を上回るほどの盛況ぶりを見せ、農業への関心の高さが窺えた。</p> <p>震災関連事業では「3.11オモイデアーカイブ」と連携し、東日本大震災後を追った写真巡回展を共催し、被害の大きかった仙台市東部沿岸地域の変化を知ってもらう契機とした。定例事業としては、非来館型事業として開始したオンラインおはなし会を定例化し、コロナ禍という理由だけでなく、来館しづらい方も参加できる事業としたことで潜在的な利用者を獲得できた。加えて「文学散歩」「スポーツ講演会」など幅広い年齢層を対象に事業を行った。特に「仙台七夕関連講演会」では、長年七夕飾りの制作に携わる方より、その歴史や思いをお話いただき、新たな利用者の獲得につながった。また若林図書館で活動する読み聞かせボランティア向けにステップアップ講座を開催し、図書館との連携を強化した。</p> <p>職員研修では全職員を対象に障害者サービス研修、人権啓発研修を実施し、「市民一人ひとりに利用しやすい図書館」として、あらゆる人に使いやすい図書館サービスの推進に努めたほか、「自らの変革を進める図書館」として、公共図書館が地域コミュニティにおける多様なアセット（資産）の利活用を議論するシンポジウムに参加し、今後の自館運営の参考とした。</p> <p>施設運営管理面では、資料の利用状況等を鑑み継続的に新たな資料を受け入れると共に、開架と書庫資料との入れ替えを行うなど、利用環境の維持に努めた。</p> <p>以上のように、市民の学びを支える生涯学習施設としての図書館の役割を果たすことができたと考えている。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>地域の歴史や魅力を発信する取り組みとして、地域の団体、施設等と連携し、様々な事業を行った。特に、3.11オモイデアーカイブとの連携事業の東日本大震災関連の写真展では、定点撮影した震災後の記録写真などを展示し、県内外の参加者から震災後の様子を知ることができる展示だった等と好意的な意見が多く、震災の記録と教訓を広く伝えるための効果的な事業だと評価できる。</p> <p>また、せんだい農業園芸センターとの連携事業の野菜を育てるための土づくりに関する講演会は、募集開始当日に定員となり、参加者から質問が多く出るなど関心の高さがうかがえた。今後の継続を望む声も多くあり、利用者のニーズに合った事業だと評価できる。</p> <p>子ども読書活動推進に資する事業として、区内児童館や家庭健康課と連携し、乳幼児と保護者を対象としたおはなし会を実施し、乳幼児と保護者が読書に親しみ、本を通じてコミュニケーションを深める機会を提供した。また、蒲町中学校「紙芝居研究会」に紙芝居の基本的な演じ方について講習を行い、中学生の図書館利用促進に貢献した。</p> <p>前年度に引き続き、市民一人ひとりに利用しやすい図書館を推進する取り組みとして、「オンラインおはなし会」を実施した。前年度は2回実施のところ、今年度は3回実施し、3回目の参加者はこれまでで一番多い人数となった。事業を実施するにあたり、担当職員が「オンラインおはなし会研修」を受講し、参加者目線のアプリの使い方や、絵本や手遊び等の見せ方等オンラインで実施するうえでの留意点等を学んでいる。</p> <p>サービス改善の取り組みとして、利用者から「汚れた本はさわりたくない」などの声を受けて、汚損・破損資料の買い替えや修理・補修、書庫等に複数所蔵している場合は入れ替えを行うなどして、誰もが気持ちよく利用できるための工夫について、前年度以上に積極的に行った。</p> <p>職員の教育・研修において、定例休館日に、接遇研修や、障害者対応研修など、全職員を対象に研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、著作権法に関する研修や、ブックトーク研修など、職員の資質向上のため、積極的に各種研修を受講している。</p> <p>以上、若林図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、地域の施設等と連携しながら職員が工夫をして新しい取り組みや、魅力的な事業を実施し、サービス向上に貢献している点が大いに評価できる。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館